

宮本茶園 宮本透

野良仕事に専念して初めての夏を迎えました。昨年は刈り取れず長雨にあたった穂から発芽した麦を燃やし、ジャガイモやサトイモが雑草に覆われて収穫できなかったという失態がありましたが、植え付け・管理作業・収穫等適切な時期にできるようになってきました。自分にできる事とできない事を考えながら野良仕事する習慣が身に付いたようで、あれもこれもやりたいという欲張りな気持ちが無くなりました。

心身が年齢相応の老人になったのか、アニメ鑑賞の趣味が変わりました。晴耕雨ノトの動画鑑賞では、韓国の映画・ドラマをよく観るようになりました。最近印象に残った作品は「イモン(異夢)」、「金子文子と朴烈」、「タクシー運転手」、「1987」、「明日へ」です。日本の植民地支配への抵抗、軍事独裁政権への抵抗、悪徳資本家への抵抗、韓国の民主主義が労働者・市民の血を流した闘いで勝ち取られた歴史をそれぞれいねいに描いた作品で、主人公が仲間を信頼し団結して闘う姿に勇気をもらっています。佐野川にこもっているので昨今の世相はネットニュースで知りうるのみですが、腐りきった政治家が権力を握る日本の行く末を心配しています。

・5年目の佐野川茶

2018年10月に誕生した藤野茶業部佐野川茶、藤野茶業部員は皆高齢アナログ人間で情報発信が苦手ですがJAグループ神奈川がテレビ神奈川番組「かながわ旬菜ナビ」で佐野川茶を紹介してくださいました。私はテレビを持っていないので観た事がないのですが千葉県に住む娘に報告すると、神奈川県内の農家や農産物を紹介するお気に入りの番組だそうです。ロケ当日は旬菜キャッチャーの大野幸さんに上岩茶園を案内しながら茶摘みをしてもらい、摘んだ葉で手もみ茶作りを体験していただきました。私は手もみ茶体験を担当したのですがテレビ出演は人生初めての経験、学生時代教育実習で研究授業をした時のような緊張感を久し振りに味わいました。「新茶の季節！かながわのお茶を召し上がれ♡」と編集されて5月15日に放送された番組は藤野でも観ている人が多いようで、放送後しばらくは「宮本さんたち、テレビに出ていたね！」と声を掛けられました。



①



②

佐野川茶には藤野茶業部煎茶 2 製品と宮本茶園謹製煎茶があり、私は有機栽培した葉を個人で製品加工し100g1500円で販売していました。23号でお伝えした

事がありますが、1500円の煎茶は価格に見合った味でなければお客様は満足されません。昨年度茶業部会で「宮本茶園が1500円で個人販売している煎茶は今年で終わりにします。来年は藤野茶業部各茶園で一番品質の良い茶葉で製造しませんか」と提案、了承されました。JA 県央愛川荒茶工場加工される生葉は出荷時に1~10等級に分類されます。1~3等級は足柄茶品評会最上位入賞レベルの評価で普通の茶園ではまず得られない等級、4等級の評価が出ればかなり高品質の生葉だそうです。

藤野茶業部の茶葉摘採は5月8日~15日で行われましたが、12日上岩茶園で摘採した生葉に4等級が付きましました。茶来末に搬送した全荒茶を佐々木社長に審査していただき、4等級の荒茶を新製品「特上煎茶」に仕上げました。高級感ある製品で佐々木社長から「特上煎茶は玉露を淹れるように飲んでください」とアドバイスいただき、お客様にお伝えしています。7月に行われた足柄茶品評会では出品数106で65位になりました。農業技術センターの先生からは「とてもよい荒茶ができましたね。来年は3位入賞目指しましょう！」と励ましの言葉をいただきました。佐野川茶の相模原ブランド構築、たくさんの方々を支えられ歩みを進めています。(写真2)

・夏の茶仕事

摘採作業が終わると更新剪枝と夏整枝です。6月3日農業技術センターの茶園巡回指導と藤野茶業部会が開催され、各茶園の更新や整枝をどのように行うか話し合いました。昨年から中切り・深刈り更新剪枝をして樹勢を回復させ新しい枝を増やす管理をしていますが、この夏も継続して取り組む事になりました。耕作放棄茶園を再生して藤野茶業部で管理している大洞茶園は農道をはさんで上側が景観保全に最低限の整枝をされた畑(道上)、下側が長らく管理されず荒廃した畑(道下)でした。2018年夏に道上を深刈り更新、道下を中切り更新して昨年からの茶葉を収穫しています。2つの畑はほぼ同じ面積ですが、今年は明らかに道下の茶葉が質量ともに道上を上回っています。剪枝と整枝の違いや効果を実験したような結果に驚き、道上は中切り更新して1年間休ませる事にしました。4年前は密林のように荒れ放題だった道下の畑ですが、夏整枝作業後にたっぷり夏肥を施し元気な新芽が伸びています。除草作業もいねいに行っているため、美しい茶園になってきました。(写真3)

野良仕事以外の事ですが、藤野茶業部部長として会議に出席する仕事が多くなりました。山北町の県農協茶業センターで開催される足柄茶の茶業運営委員会、JA神奈川つくい本店で開催される城山茶業部との茶業運営委員会や農林産部・畜産部臨組織代表者会議等、これまでお会いする事のなかった様々な役職者と同席しています。新規就農6年目の未熟者ですが、先輩農家の皆さんに藤野茶業部の取り

組みを伝えながら津久井地域の農業振興につながる仕事ができるよう精進します。



・第44回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

会場飾花・献花用花卉栽培担当として3年目になりました。今年もアスター・ベニバナ・ヒマワリ・ヒャクニチソウを植え付けましたが、播種作業は茶園摘採作業の合間を縫って行っているため綱渡り状態です。4月22日アスター3品種、23日ベニバナ、5月7日と24日ヒマワリ2品種、17日ヒャクニチソウをプラグトレイに播種して自宅ベランダで育苗、随時花卉畑に定植していきました。併せて5月27日景観用ロシアヒマワリを直播して7月31日開催の追悼会に備えました。昨年より実行委員の吉田さんが花卉栽培担当に加わり、除草作業を受け持っています。今年もいっしょに株間の雑草を抜いてくださり、追肥に費やす時間ができたので1B化成肥料を施しました。7月になって咲き始めた花は病気も発生せず色鮮やかで、重責を果たす事ができました。

今年は神奈川県朝鮮中高級学校フィールドワークが7月20日に行われ、献花用花卉にベニバナを入れました。若き日に学んだ山形県の鉱山で強制労働させられた朝鮮人戦時徴用工の過酷な体験を思い出しながら育てたベニバナ、民族学校の子どもたちに届ける事ができてよかったです。(写真4) 7月31日の追悼会では前日・当日併せて約800本の花弁を収穫して、会場飾花と献花に使いました。コロナ禍で過去2年間献花のみの開催でしたが、今年はたくさんの関係者の努力によって会場内でのセレモニーとギャラリーでの展示・献花を実施する事ができました。当日は約200人の参列者があり、日本のアジア侵略の犠牲になった日本、韓国・朝鮮、中国人ダム建設殉職者の冥福を祈ってヒマワリ・ヒャクニチソウを手向けてくださいました。(写真5)



・雑穀街道普及会の活動

2018年を最後に中断していた藤野での雑穀栽培講習会、第8回自給農耕ゼミ(佐野川)として5月22日上岩雑穀畑で再開しました。木俣師が講義と実習指導を行い、モチキビとモチアワを中心にヒエ・シコクビエ・オカボ・ハトムギ・アマランサス・モロコシを植え付けました。ロープを使い一直線に畝を立て、厚播きにならないよう注意しながら種子をばら播き覆土・踏圧しましたが、参加者の皆さん手慣れて作業に取り組んでいました。久しぶりに木俣師の講義も受けられて、とても実り多い講習会でした。(写真6)

上岩雑穀畑ではこれまで6月中旬以降にしか播種できなかったのですが、5月中に播種した雑穀は追肥も施したので順調に生育し、キビは7月下旬に穂を出し始めました。第9回ゼミは8月21日開催で防雀ネット張りを行う予定でしたが、穂の登熟具合を考えると雀の襲撃を受けてしまいます。木俣師と相談し8月6日に実施する事にしました。急な日程変更でしたがフノサトメンバー3名が参加してくれました。佐野川は4日・5日が雨天で支柱立てが出来なかったのですが4人で行う作業は効率がよく、2人一組で鉄パイプの支柱を畝間に埋め込み重いネットを広げて張る作業は2時間程で終わらす事ができました。(写真7)



第10回ゼミは9月4日開催でキビを収穫する予定です。27号でお伝えしたように今年収穫した雑穀は木俣師と来年発泡酒に仕込む準備をしています。醸造は和田にあるJazz Brewing Fujinoの山口さんをお願いしており、先日は孫娘農園で栽培しているホップを収穫して届けました。右籠のホップがチヌークで山口さん推奨品種です。(写真8) 2023年は国際雑穀年と母校学芸大創基150年、記念発泡酒原料の雑穀・ホップは自給農耕ゼミ(佐野川)が責任もって栽培します。上岩雑穀畑では雑穀だけでなく麦・大豆も栽培しておりゴエモン佐野川チームでの醤油仕込みもできるので、自給農耕ゼミ(佐野川)にご参加ください。

※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。



⑧